

研修報告書

施設長	課長	主任	報告者

1. 研修名	第 5 回科学的介護実践講座（福岡分校）
2. 参加者氏名	
3. 日時・場所	平成 26 年 3 月 31 日 国際医療福祉大学 福岡キャンパス 看護学部
4. 研修内容	<p>「内容」「感想」「その他」欄は、内容に応じ記入欄の調節をして下さい</p> <p>・事例検討 要介護 4・5 利用者の歩行</p> <p>-----</p> <p><発表施設></p> <p>① 好日苑（福岡県）② 千寿園（熊本県）③ 蕉夢苑（熊本県）④ みゆき園（熊本県）</p> <p>⑤（盲）松月園（福岡県）⑥ 翠光園（熊本県）⑦ りゅうきんか（熊本県）</p> <p>-----</p> <p>5. 初めに、李先生から話があり、これからの特別養護老人ホームは在宅復帰が必要であり、在宅復帰をするために、竹内理論を用い、要介護度を下げ在宅に戻し、また悪くなれば特養に入所して、また状態を改善し在宅へ戻すというサイクルが必要であり、その中でもオムツ外し、周辺症状、認知症状の軽減などを行う事により在宅での生活を可能にしていく。</p> <p>その中で、東京の施設の事を紹介されていたが、開設当初からオムツを購入せず、パット使用のみであり、入所した時からオムツを使用せず、入所の時点からオムツ外しを行っている。</p> <p>それだけではなく、入所した利用者の 6 割程度が要介護が下がり、認知症状の改善が出来ているという事であった。</p> <p>ただ、要介護度を下げ、オムツ外しを行ったのに、報酬は下がり、800 万も収入減になることから、一部の地区で要介護度を下げた事業所に対し、報酬を出しているというところがある。今後全国的にそのような動きになると思われるため、みかんの丘でも竹内理論を理解、実践し、オムツ使用率 0%、周辺症状の改善、在宅復帰等出来るようにしていかななくてはならない。</p> <p>その為にはリーダーがきちんとしたプランの立案し、そのことを周知し、実行させ、評価をしていくという事を繰り返し行う事でその利用者が自立に向けて行くとともに、オムツ外しを達成する。</p>

その為にも竹内式での介護実施、基本ケアもきちんと行っていくことが必要である。

当施設でも在宅復帰に向け、竹内理論だけではなく、今後基本ケアの見直しを行っていくことで、オムツ外し、要介護度軽減等出来る施設になっていくことで、選ばれる施設になっていけるようになる様
今後も日々努力し、今後業務に取り組んで行きたい。

7.宿題について

- ・入所者状況表の提出
- ・要介護4.5利用者の歩行。(2Fにて3名抽出。)

8.今回の講習で使用した資料を保管していますので必要な方は連絡してください。

今回業務多忙な中、このような研修に参加させていただき感謝します。